

# 富岡・エコ・広報

(第25号)

発刊日 2018年3月吉日

発行元：富岡地区環境推進員協議会 発行責任者：田中 美光

事務局：富岡まちづくりセンター

<http://www.town-tomioka.click/kankyo/>

「富岡・エコ広報」はインターネットからも閲覧可能です



富岡地区は中富、十四軒、フラワーヒル、神米金、所沢新田、北田、岩岡、三商北中、向陽ハイツ、下富、武野台、ネオポリス、郊外マンション、さつき台、上岩岡、北中、東海、エステシティの18地区で構成されています。

## 「環境への思い」

### 富岡地区環境推進員協議会 会長 田中 美光



私の幼少期の頃、近所のお兄さんと北野の天神様の祭礼に出かけました。多摩湖（村山貯水池）の堰堤を渡り現在の西武球場前、高橋（たかばし）の交差点を直進する一本道をひたすら歩きました。私にとってかなり遠い道のりでした。天神様の境内の出店で可愛い「ひよこ」を買って家で長いこと育てました。また、どの道をどう歩いたかは今定かに覚えておりませんが、所沢市の七夕祭りにも行きました。道路両側の豪華な飾りつけ、商家づくりの街並み、露天のにぎわいなど

どれも驚きでした。さらに、久米には田んぼがありザリガニ取りに出かけましたが、その場所には里山の原風景が広がっていました。天神様、七夕、久米の田んぼ、どの光景もセピア色の写真を見るような私の若かりし頃の懐かしい思い出です。

今、所沢市は人口 34 万人を超える首都近郊都市として発展し続けております。一方、都市化の進展の中で、緑が少なからず減少してきていることも事実ですが、幸い私たちの富岡地区をはじめ市の多くの地区でまだまだ緑豊かな自然が残っています。今の子供たちが成人したときに思い出になるような自然と調和した地域環境にしていかなければなりません。

私たち環境推進員が引き続き行政や地域の団体等の皆さんと連携・協働して良好な環境づくりの一翼を担っていければと考えています。皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い致します。

## ●砂川堀及び神米金新道植込み清掃活動に参加して

### 東海自治会環境推進員 川井 道子

富岡地区環境推進員協議会は、富岡地域づくり協議会に加入し環境部会として区内の環境の保全やゴミの減量・リサイクルの推進を主な事業としています。

今年度初めての取組みとして、エコネットくぬぎやま（県の保全林くぬぎ山の維持管理など様々な環境に対する保全活動をされている団体）の皆さんと一緒に清掃活動を行うこととなりました。

砂川堀班と神米金新道班の2班に分かれてゴミを拾いをしました。担当した砂川堀周辺は「富岡地区ウオーラリー大会」が行われていますのでご存知の方も多いかと思えます。

思ったよりゴミは少なくきれいな印象を受けました。しかし手前の道路に面した林の中にはたくさんのゴミが捨てられていました。殆どがペットボトル、空き缶、分別されていない状態の汚れたゴミです。

今回、集められたゴミは軽トラック1台分(約90<sup>キロ</sup>)にもなりました。ポイ捨ては決して許される事ではありません。しかし富岡地区の緑を守る為にこの大変な活動が実はとても大事な意味のあることなのだと思われ参加して感じた1日でした。



## ◆環境講演会に参加して 講演「環境問題の今」 講師 秋草学園短期大学学長 北野 大氏

さつき台自治会環境推進員 平井 久子



提供：所沢市環境推進員連絡協議会

1月25日、48年ぶりの記録的な寒さにも拘らず、ミューズの会場は満席で、市民の環境問題に対する意識の高さを実感しました。

北野氏は、地球温暖化・循環型社会について、弟ビートたけしさんとのエピソードも交えながら、判り易くお話し頂きました。

### ◇地球環境問題

モアイ像で有名なイースター島は、人口増加に伴い、食糧増産と木造船建造用の為に、森林を伐採しつくした結果、島の環境が破壊され、文明自体も途絶えてしまいました。

地球温暖化（環境）問題は、一つの国だけでは対処しきれない問題であり、弱者・後世、生態系にまで影響を及ぼす問題であると強調されていました。

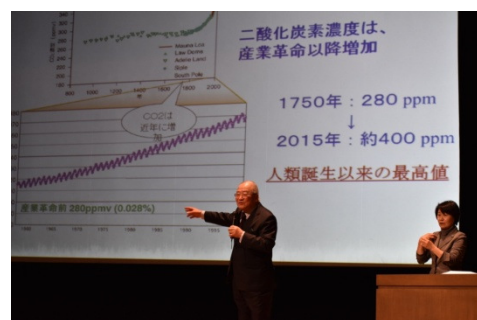
### ◇循環型社会

持続可能な発展は、スローな循環型社会を作り、自然と共生していく社会です。今の時代なら、打ち水、緑のカーテンで、夏の暑さをしのぎ、家の西側に落葉樹を植え、夏は日陰に、冬は日が差す生活です。

循環型社会は、ゴミの減量（Reduce）・再利用（Reuse）・再生利用（Recycle）3Rを基本的考え方に置いていますが、日々「混ぜればゴミ、分ければ資源」の分別する事の大切さを強調されていました。

東京オリンピック・パラリンピックに向けて「都市鉱山から作るみんなのメダルプロジェクト」は不要小型家電から抽出した金属をリサイクルする活動であることを紹介されました。

循環型社会は、物の豊かさから心の豊かさを大事にする社会です。「小欲知足・足るを知る」の価値観・幸福感を持つことが大切です！との言葉で締めくくられました。



提供：所沢市環境推進員連絡協議会

## ●「もったいない市」に参加して

エステシティ自治会環境推進員 臼杵 寿幸

千点近くの善意が集まり134の善意の輪が繋がりました。平成29年11月19日中富南コミュニティセンターで「もったいない市」が開催されました。多くの方から使わなくなった品を（千点近く）提供していただき、展示スペースが足りないくらい数多くの品がそろいました。

衣類・布類から食器類、インテリア小物まで多種多様のものが持ち寄られ、訪れていただいた方も掘り出し物やお気に入りを探し、熱心に探されておりました。

1点100円でお買い上げいただいた結果、134点のお買い上げで計13,400円となり、全額「所沢市緑の基金」に寄付することができました。来年はより多くの方に参加いただけるよう場所も変更し開催する予定です。

不用品を単に廃棄するのではなく、必要とされる方に持っていただき、新たな命を吹き込むことができます。ものを大切に最後まで丁寧に使い切ることを今一度考えるきっかけになることを期待します。

お品を持ち寄っていただいた皆様、お買い上げいただいた皆様、善意の輪を広げることに協力いただきました全ての皆様に改めてお礼申し上げます。





## ◆秋の視察研修に参加して（石坂産業への視察）

三商北中自治会環境推進員 西田 真紀

11月21日、三芳町にある石坂産業の視察研修に参加いたしました。産業廃棄物中間処理工場との事。どのような形で処分をおこなっているのか興味を持ちました。

工場内では、がれきのリサイクルでCO<sub>2</sub>を排出しない電動式油圧ショベルでコンクリートなどを破砕。分別されベルトコンベアに流れてきたゴミを手作業で選別。木材を砕く大きな音が外に漏れないよう高速道路で使われている遮音材を使用。金属も大きな磁石ですくい上げ、種類ごとに細かく分別。

曲がった釘が山積みされていく様子を見て細かく分別されているなど感心しました。運ばれてきた瓦も細かく砕き、通路の砂利として敷き詰められ、色々なところにリサイクルされている様子を見ることができました。

また、近隣の雑木林の手入れをし、落ち葉堆肥を作り、それを肥料にして農作物も作っており農業のリサイクルにも力をいれていました。

その後、ツリーハウスやミニSL機関車が走る公園へ行くと、小さなお子さんづれの親子の方々も多く見かけ、環境を整えた結果が現れているのではないのでしょうか。このように環境にも配慮できる業者が多く増えてくれたら良いと思う次第です。



## ●「北中クリーンチーム」の活動

北中自治会環境推進員 市島 美津子

クリーンチームが発足して7年になります。自分たちの住む町を自分たちの手で！との思いで月1回、第1土曜日8時から、1月～3月は、9時から1時間半前後。雨天順延で第4週まで持ち越すことも。

地域は、広範囲で林が多く、落ち葉、ゴミの不法投棄は日常茶飯事。

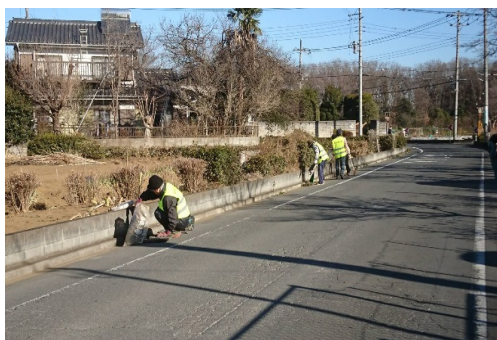
今日、掃除をしても明日はもっと大きなゴミが！この繰り返しではありますが、徐々にゴミが減りつつあります。

4か所を回っているので次の作業日には、泥もかなり積もり、雨水桝はバールで蓋を持ち上げ泥をかき出します。

長くやっていると、同じ時間には参加できないが個人で道路脇の伸びすぎた雑草を何日もかけて切って下さる方、街路樹下の雑草を抜いてくださる方、自宅前の道路は責任をもってと色々な形で関心を持って下さいます。数年前に比べると年に2回の美化デーもゴミの量は格段に減ってきています。

ユニフォームの黄色いベストを身に着けた団体が行動していると「暑い中ありがとうございます。冷蔵庫の飲み物を全部もってきちゃいました。」とお礼の言葉を頂いたり、作業の最中に、「通るぞ」とジャマだとはばかりに大声で自転車を走らせる人。様々ではありますが、この町内を通る人がきれいだな！住みたいな！と思ってくれるような街を自分たちの手で守っていきたい。

その輪が広がればいいな！と日々活動しています。



## ◆環境美化デーの取り組み

北田自治会環境推進員 新井 春好

環境推進員になり早2年が経過しました。最初の仕事は春の環境美化の取り組みでした。

午前7時に、3人の環境推進担当と自治会長他役員が、まちづくりセンター前に集合。軽トラ1台に4人が便乗し、各班のゴミ集積所に置いてある物を回収。中には不良品で大きな軽油の空き缶や壊れた自転車等ありました。

道路脇に捨ててあるビン・かん・タバコの吸殻等を拾い集めた軽トラには、壊れた自転車やゴミ袋が山のように積まれており、こんなに出るものかと驚きました。まだこんなのは少ない方だよと言われました。



また、ある班では不当投棄物があり交番に連絡して警察官に来てもらい中味を調べてもらい投棄者が判明し注意してもらい、その後は不当投棄物が無くなりました。いろいろと努力をしている事と思いました。今ではそのような努力により、不当投棄物も少なくなりました。

各自治体や各班の取り組み方が違うけど、役員さんや会員の方の協力で減らす事が出来た事は大変素晴らしい事だと思います。これからもがんばれ、がんばりましょう。

## ●環境保護・大気汚染について

向陽ハイツ自治会環境推進員 太田 健次郎

報道によればオバマ元大統領がカナダからアメリカに通じる二本の石油パイプラインを、環境保護の視点から、一本のラインは建設中止、もう一本は『Key-stone XL』既に建設許可されていたのを却下したが、新任のトランプ大統領は建設推進をするため大統領令に署名した。

これによって雷鳥、狐の生態系に悪影響を及ぼし、このP.Lineは先住民の水源であるミズーリ川を横切るため下流域に住む約1700万人の水が汚染されることになる。大勢の人がペンタゴンでデモを行ったのも記憶に新しい。

フランスのニコラ・ユロ (Nicolas Hulot) 新環境相は、地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」で2040年までにガソリン車とディーゼル車の販売を終了させると発表した。これも、環境保護、温暖化および空気汚染の防止策であろう。

東京都は、白熱電球2個以上をLED電球1個と無償交換する取り組みを始めた。都内の協力家電店に白熱電球を持っていくと交換できる。「都内のエネルギー消費量の約3分の1を占める家庭部門の省エネルギー対策を一層推進する」という。

配布予定のLED電球は100万個。60ワットの白熱電球100万個がLED電球に置き換わると、年間約23.4億円の電気料金削減、年間約4.4万トンの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減効果があるという。「多くの都民にLED電球の省エネ効果を実感してもらい、さらなる家庭の省エネムーブメントにつなげていく」。事例を挙げれば枚挙にいとまがないが、下水道事業においても温暖化防止を行っている。

所沢市の『護美』処理施設ではダイオキシンやその他の有害物質の発生を抑制するため、ごみ処理の工程の改良をおこない定期的に有害物質の数値データをセンターおよび市役所の電光掲示板で公開している。石坂産業は取り壊した家屋や解体したビルから発生した廃材を受入れ、再生利用を行っている。環境運動にたずさわる私達は『歩き煙草』『タバコのポイ捨て』『住まいの近くの清掃』『植樹・花植え』『環境運動の講話』などと、とても小さな事だけど頑張っています。

来年も、その次の年も、次の世代の人達に受け継がれることを願って!!

～編集後記～

日本では、年間2,775万トン(※)の食品廃棄物等が排出されているそうです。このうち、まだ食べられるのに廃棄される「食品ロス」は621万トン(※)。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(平成26年で年間約320万トン)の約2倍に相当し、社会・経済・環境に渡る大きな課題となっています。食品ロスの発生には、直接的・間接的な要因が複雑に関わっており、それぞれの立場でできること、協力できることから着実に進めていくことが大切だそうです。

個人個人が食品ロスをなくす意識を持つことが大事なのではないでしょうか?(※農林水産省及び環境省「平成26年度推計」)

上岩岡自治会環境推進員 田村 幸弘